

令和3年度学校自己評価システムシート

目指す学校像	建学の精神「自立した個人の育成」を踏まえ、「質実・英知・愛敬」の校訓を具現化するとともに、新しい価値を創造する人材を育成する。
--------	-----------------------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> どのような力を生徒に育成するのかを明確にし、教育活動を見直し改善していく。 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を図る。 安心で安全な教育環境を整え、規律ある学校づくりを推進する。 保護者(後援会)・同窓会・地域との連携を密にして、開かれた学校づくりを推進する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校評価委員会

※学校関係者・第三者評価実施日とは、最終回の学校関係者・第三者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	第三者委員	5名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者・第三者評価					
令和3年度目標					令和3年度評価(令和4年4月1日現在)					
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	令和4年4月1日	
1	「才能教育」の色合いを強く打ち出し、個性を發揮し自立できる人材の育成を目指すため、次年度から従来の2コース制から3コース制に改編する。そのために、今年度は各新コースの教育課程の編成が課題となっている。さらに、大学入試改革への対応、ICTを活用した授業改善、グローバル人材の育成にも取り組んでいく。	<ol style="list-style-type: none"> 各コースが実施する取り組みについての詳細な検討 各コースの新教育課程の編成 グローバル人材の育成 	<ol style="list-style-type: none"> 将来構想検討委員会が中心となり、新コースの目標や目的について、教職員に周知するための研修会を実施する(1学期)。 各コースの新教育課程編成案を提示(5月)。今後は教科会や研修会を実施して微調整を行い、より良い教育課程を編成していく(1,2学期)。 従来からの事業、エンパワーメントプログラム、NZ短期留学、オンライン英検・英会話、TGG訪問(通年)に加え、今年度から新入生研修会にイングリッシュキャンプを実施する。(4月) 	<ol style="list-style-type: none"> 研修会で共通理解が深まり、個別相談会を通じて、生徒募集に役立たせることができたか。 教科会や研修会の意見を反映させ、編成作業を期日までに完成できたか(2学期)。 イングリッシュキャンプの反省(5月)を踏まえ、今後のグローバル教育につなげていくことができたか。(通年) 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒募集のための教員研修(6/17)及び共通理解をより深めるための教員研修(R4 3/3)を2回実施した。 教育課程編成のための将来構想委員会を9回、意見交換会(6/19)を実施し、職員会議(11/25)で決定した。 グローバル教育を「全校生徒対象」と「インターナショナルプログラム(EL)対象」に分けて実施していく。教員の仕事分担も明確にした。 	B	<p>○各コース毎に、新教育課程の実施を軸に、「才能教育」が始まる。予想を超える課題にも全教職員が一丸となって取り組む必要がある。</p> <p>○新たに実施する「総合的な探究の時間」をグローバル教育に繋げていくことが課題である。</p>	学校関係者・第三者からの意見・要望・評価等	○生徒各人の将来への希望の多様化に対応し、学業だけでなく、人間教育を根底に未来を切り開くことができるチャレンジ精神旺盛な生徒を育てて欲しい。そのために、生徒の変化を先取りして対応してほしい。また、3コース制の移行は大変良いことだと考える。生徒のニーズに答え、生徒一人ひとりを「その気にさせる」教育を願う。	
2	入学時より3年間で確かな学力を身に付けるため、計画的・体系的な指導をコース・クラスごとに行い、生徒の進路実現を目指している。また学習支援ソフトを有効活用し、自立して学習できる教育環境も充実している。さらに昨年度は、100周年記念行事の一環として各教室にプロジェクターを設置しWi-Fi環境を整備した。今年度は従来の授業力向上への取り組みや生徒の家庭学習時間の確保に加え、新しい教育環境を十分に活用した授業の改善への取り組みが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導の充実 学習習慣の確立と学習時間の増加 主体的・自主的な進路選択力の育成 教員の資質向上への取り組み 	<ol style="list-style-type: none"> 従来の教科指導・授業改善への取り組みに加え、新型コロナウイルス感染防止のための臨時休校時には、専用の時間割による双方向型授業を行い生徒の学力を維持・向上させる。(通年)。 担任がクラッシーを有効活用し、日々の学習記録の確認を積極的に行い、学習時間を増加させる(通年)。 本校が発行している「進路情報の手引きとデータ編」を計画的に活用し、HRを中心に発達段階に応じた進路指導を実施する(通年)。特進コース対象のリモートによる課題研究を推進する(通年)。 学校評価委員会で授業評価アンケートの評価項目の見直しを行い授業改善に取り組み、授業力の向上を図る(1学期)。 	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止のため臨時休校時になった場合、双方向型授業やZoomを使用したSHRが実施できたか。 生徒の学習意欲や生活リズムが維持できたか。昨年度と比較して家庭の学習時間が増えたか。 国公立大学20人、早慶上理15人、GMARCH50人、成成明國武+日東駒専120人の合格延べ数が達成できたか。課題研究がより推進されたか。 アンケートや調査の結果を前年度と比較し、改善がなされたか。 	<ol style="list-style-type: none"> 感染拡大防止のため、3期間(1/31～2/12, 2/21～3/3, 3/9～3/17)で、通常時間でのオンライン授業を実施し、学力の維持向上に努めた。 オンライン授業実施期間では、SHRの実施と出席確認を行い、生徒の学習意欲や生活リズムの維持に努めた。 国公立大学では埼玉大学6名、筑波大学、東京農工大学等18名、早慶上理9名、GMARCH・同志社68名、成成明國武+日東駒専141名の合格者数である。特進コースでは東大の野地研究室の指導で、課題研究を始めてリモートで実施した 授業評価では、学校全体の平均点が80点を超え、学校満足度調査全体では生徒が約8割、保護者が約9割の結果を得ることができた。 	A	<p>○常勤・非常勤を問わず全ての教員が問題なくオンライン授業を実施した。今後も始業式・終業式、学校行事も含め「学び」を止めることがないように、一層の技術の向上を目指す必要がある。</p> <p>○国公立大学は目標値に達しなかったが、難関大学の合格者が増え、GMARCH・成成明國武+日東駒専は目標値に達した</p> <p>○授業評価の学校全体の平均点は例年80点を超えるが、さらなる授業力向上のための教科研修会が必要である。</p>	○コロナ禍、ICTを活用し計画的・体系的な指導を実施しており学力の維持・向上が図られていることは評価に値する。進学教育だけがすべてではないと思うが、生徒の夢を叶えるため、教員の努力には感謝する。	○生徒が主体的に学問に取り組む姿勢が大切で、生徒が明確な目標を立てて、それを学園がサポートする人的環境や物的環境をさらに整えてほしいと願う。	○この2年間はコロナ禍ということもあり、人との関わり合いが希薄となる傾向が強く、高校3年間を通して生涯の友人ができるような取り組みも打ち出してほしいと願う。
3	ほとんどの生徒が学校のルールを守り、良好な生活態度で学習・部活動・学校行事等に意欲的に取り組み、規律ある学校生活を送っている。特に現2年生は在学中に成人となることから、主体的に判断し、他者と協力・協働できる意識を醸成していくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 コロナ感染防止対策の実施 部活動・生徒会活動・学校行事の充実 成人教育の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀・美化・保健委員が、教育環境の整備を実施する(通年)。 アルコール消毒等を用いた手指の消毒及びマスク着用を徹底する。さらにアクリル板等を利用して飛沫防止対策に努める(通年)。 主体性を育む観点から、部活動・生徒会活動・学校行事をさらに活性化させる。体育祭や文化祭ではリモートによる実施も考慮し、生徒が主体的に実施できるように支援していく(通年)。 成人教育指導者による当該生徒を対象とした講演会を実施する。さらに各学期の終わりに校長講話を行い、生徒の意識を喚起する(2,3学期)。 	<ol style="list-style-type: none"> 各委員の働き掛けで、クラスの教育環境に変化が現れたか。 コロナ感染防止対策を徹底し、校内感染拡大の発生を抑えることができたか。 生徒会主催の学校行事で、主体的な意見交換や活動が見られたか。部活動の実績が昨年度を上回ったか。 成人教育指導者による講演会や校長講話で生徒の意識が変わったか。 	<ol style="list-style-type: none"> 風紀・美化・福祉・保健委員が自主的に教育環境の整備に努めた。 リーバーアプリを導入し、教職員・生徒の日々の体温・体調のチェックを行い、校内感染拡大防止に努めた。 昨年度と同様に体育祭は中止し、オンライン文化祭を実施した。送別会を卒業式予行後に実施するなど、生徒会の創意工夫がより発揮された。 2学年の生徒対象に、弁護士を招聘し講演会をリモートで実施した(3/18)。 	A	<p>○各委員が自立し役割を果たせるように、教員の委員会指導が課題である</p> <p>○予定されていた学校行事や部活動の多くが実施できなかったが、映像を活用した文化祭や送別会を実施するなど生徒会の創意工夫が見られた。</p> <p>○講演により生徒の問題意識が高まった。今後は学則や指導要録等の変更が課題である。</p>	○コロナ禍全く終わりが見えない中、学校生活においても感染防止対策を徹底し課外活動についても工夫をし成果を上げており評価に値する。	○成年年齢に達し、成人教育への最終段階で規律ある生活も大切に思う。教科教育とともに行事等も積極的に行い総合的に良好な人材の育成を継続的にお願いしたい。	
4	開かれた学校を目指すため、地域や保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を積極的に推進している。特に今年度は中学校・塾や地域との連携を強め、教育実践や教育活動についての広報活動を推進し、生徒募集に繋げていくことが課題である。	<ol style="list-style-type: none"> 信頼にこたえる開かれた学校づくり 情報発信と生徒募集の強化 	<ol style="list-style-type: none"> HPを一新し、学校の最新情報を発信し続ける。特に開かれた学校づくりが生徒募集につながるようにHPを工夫・改善していく(通年)。 3コース制に改編する新体制の特色を強く打ち出し、学校案内・生徒募集基準も刷新し、強力に生徒募集を進める。個別相談会終了ごとに各コースの人数を教職員に提示し、目標数を示していく(通年)。 	<ol style="list-style-type: none"> HPが見やすくなり、学校説明会・個別相談会の予約が取りやすくなったか。アクセス数も昨年度より増えたか。 学校案内の刷新、チラシの作成、目標とする相談件数の提示で、募集定員400名を超える結果が出たか。 	<ol style="list-style-type: none"> HPを一新した6月からの9か月間で、約15万件のアクセスがあった。学校説明会・個別相談会の予約ページは、トップページにバナーを張り誘導がしやすいように工夫した。 教職員が一丸となり、新体制の特色を強く打ち出している塾訪問・中学校訪問・個別相談会を実施した。その結果、生徒募集は552名となった。 	A	<p>○学校行事や部活動の様子をタイムリーに発信していくことが課題である</p> <p>また学校生活やグローバル教育のページの改善・充実も課題である。</p> <p>○学校説明会では、学校の魅力を強く感じることができるよう工夫を重ねていく必要がある。</p>	○地域や保護者との交流は学園運営上大切なことと思う。生徒各人にもこの大切さを教えて欲しい。	○生徒・教職員に対して学校の情報発信を行ない、山村学園の良さをもっとアピールし、さらに魅力ある学校づくりをお願いしたい。	

